

北九州市立枝光台中学校

えだみつだい

校長 戸次 健治

【校 訓】

「邂逅」「自律」「創造」

【学校教育目標】

「知・徳・体の調和のとれた心豊かで、学校や地域を
愛し自主自立の精神に満ちた生徒の育成」

一学期終業式で話した言葉です。

今日は、1学期終業式です。明日より夏休みが始まります。学期の終わりには、自分の努力不足を発見し、どのように補うのかを考えることが大切です。夏休みは学校を離れ、生活や学習は、すべて皆さん自身が自分の責任において自己管理しなければなりません。後で悔いを残さないようにするためにも、ぜひ計画的な過ごし方を心がけてほしいと願っています。

学校の1学期を振り返ると、特に5月の体育大会が印象に残っている人は多いのではないのでしょうか。あの体育大会で勝敗を超えて、団結することや協力すること、係の仕事を通じて責任感といったものが全員の身になったと思っています。素晴らしい体育大会でした。また、学期の後半には中体連が始まりました。これも勝ち負けはつくものの、敗れた部活動生もそれまでの練習での努力をすることの大切さ、あきらめない気持ちやチームワーク大切さを日々の練習の中で会得しています。体育大会や部活動で得たものはどれもあなた方の大切な宝物です。自分から手放すことなく。これからもその宝物をピカピカに磨いていってください。

さて、今日は、生徒会の今年度のスローガン「Over The Top」～限界や目標を超えて～について私なりの思ったことを話します。限界を超えることは難しいことですが、大切なことだと思っています。逆を考えてみます。「自分で限界を決めてしまう」ということです。この考え方は、多くの方がすることですが、自分で限界を決める、自分の可能性を制限してしまうことは、結局成長や成功の妨げにつながると思います。やはり新しいことに挑戦することで、自分の限界を超えることができます。失敗を恐れず、経験を積むことが大切です。体育大会の時の大縄の練習や本番を思い出してください。練習前は、全員ではそんなには飛べないと思っていた人もいたと思いますが、みんなで練習を重ねるうちに飛び回数も増えていきましたね。

これからは次の言葉を言わないようにしたらどうでしょうか、それは「どうせ無理」という言葉です。なぜなら、努力をしないまま自分自身を見くびっている言葉に聞こえます。他の人に「お前には、どうせ無理だ」と言われたらイラっとすると思います。だから自分にも言わない。「どうせ私には無理」、それは、自分の可能性に対してとっても失礼な言葉です。無理と思わず、成功するまで決して諦めずやり続けていく事です。無理だと諦めたらそれで終わりです。諦めなかったら、まだチャンスはあるはずです。生徒会のスローガンを通して私は以上のようなことを考えました。

明日からの夏休み「どうせ無理」と自分で自分にブレーキをかけるのではなく、多くのことに進んで挑戦してみてください。新しい自分に出会える可能性が広がります。新学期、今より一回り成長している皆さんに出会えることを楽しみにしています。